

## 平成 27 年度 第 2 回庄原市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成 27 年 12 月 21 日 (月) 午後 3 時 30 分開会

2. 場 所 庄原市役所 5 階 第 2 委員会室

3. 出席者

**【構成員】**

木山耕三市長 牧原明人教育長 末信丈夫教育委員  
谷壯一郎教育委員 寺西玉実教育委員 中山智恵子教育委員

**【事務局】**

兼森博夫企画課長 山田明彦教育総務課長  
中重秋登教育指導課長 赤堀幹義生涯学習課長  
ほか担当職員 (3 名)

**【議事進行】**

木山耕三市長

4. 欠席者 なし

5. 傍聴人 なし

6. 開 会

7. 説明事項

(1) 第 2 期庄原市長期総合計画 (案) 教育分野について

事務局は、配布資料に基づき、第 2 期庄原市長期総合計画 (案) の教育分野について説明を行った。

(2) 庄原市教育振興基本計画 (素案) について

事務局は、配布資料に基づき、庄原市教育振興基本計画 (素案) について説明を行った。

(3) 庄原市いじめ防止基本方針について

事務局は、配布資料に基づき、庄原市いじめ防止基本方針について説明を行った。

(木山市長)

子どもがいじめについて相談するとすれば、最初は家庭ではないか。その家庭からの相談が学校にされなければ、次は教育委員会となるのか。

(牧原教育長)

教育委員会が窓口になると思う。

(中重教育指導課長)

平成 24 年度からいじめに関するアンケートを各学期に最低 1 回は取るよう県教委から話があった。現在、全小中学校で各学期に最低 1 回はアンケートを行い、状況を把握している。その中で事案があれば、まず学校で組織的に対応し、その後、事案の内容や対応状況などを教育委員会へ報告している。

(木山市長)

学校が児童に対してアンケートを行い、学校が取りまとめるのであればそうしたことはないと思うが、いじめに関する情報が教育委員会が知らない状況で先に報道されることがある。実際に子どもが帰宅して親に相談した場合、教育委員会に直接話が来ることはあるのか。

(中重教育指導課長)

学校へ報告されることが多いが、教育委員会へも相談されることはある。

(木山市長)

そういうときは直接学校へ行けばいいのではないか。

(中重教育指導課長)

教育指導課の担当職員が連絡を取ったり、学校へ出向くなりして、情報共有や必要に応じて指導を行う。

(木山市長)

いじめにも大きい、小さいがあるかもしれないが、迅速に対応しなければ重大なことになりかねない。情報を早く集めて対応することが大事だと思う。

(中重教育指導課長)

迅速かつ適正な対応をとるよう学校へは指示している。

(谷教育委員)

言い易いのだろうと思うが、教育委員に直接言われる方もいる。少なくとも自分の地域においては、そういった情報を聞くと、必ず「包み隠さず何でもいいから相談してほしい」と言っている。そういう地道な活動が大切であると思う。

幸いなことに、今のところ重大な事案は本市では起きていないが、たまたま起きていないだけでいつ何があるか分からない。緊張感を常に持って任期中は取り組みたい。

(牧原教育長)

併せて警察とも連携を取っている。行政・学校、北部こども家庭センター等を加えた協議会を年2回開催しており、そこで色んな情報・課題などを出し合っている。また、児童福祉課とも連携し、必要に応じて情報を共有するようにしている。

## 8. その他意見交換

### (1) 児童生徒の学力や体力の状況について

事務局より、庄原市の児童生徒の学力や体力の状況について説明を行った。

### (2) その他

(牧原教育長)

繰り返しになるが、第2期長期総合計画と関連して、教育振興基本計画を策定しているが、教育振興基本計画の基本的な柱立ては長期総合計画とほぼ同様に設定している。

教育大綱もこういう柱立てで良いか、市長のご意見をいただきたい。具体的な施策等へ反映するものも多くあるので、しっかりと支援していただきたいと思う。

(末信教育委員)

3点ほど質問・意見がある。1点目は、まちづくりは人づくりであり、教育分野においてどのように人材を育成するかということである。予算がないとできないことであるため、市長には特段の配慮をお願いしたい。

2点目は「第2期長期総合計画」にもあるが、市の最重要課題は人口減少であり、教育分野でもそれが関係している。家庭なり地域なりの絆、あるいは学校・家庭・地域がいかに連携して指導力を高めていくかがしっかり示してある。一方で、力を付けていくためには教育環境をどう考えるかという課題もあり大変悩ましい。そういう点で市長の考えを聞かせていただきたい。

最後もう1点は、市の組織の中で部制を導入すると議会に提案されたと聞いて

いるが、教育委員会は今後どう変わるのか教えてもらいたい。

(木山市長)

教育予算が少ないのではないかという話があったが、どこが少ないか教えてほしい。

早急な対応が必要でないものは待とうというものもあるが、教育予算に限って特段予算を少なくしようというものはなく、意見をしっかり出していただき、できるところはしっかり取り組んでいきたいと考えている。

人口減少への対策について、これまでは高水準な教育・収入・サービスを求めて都市部へ子どもたちが出て行くのを勧めてきた風潮があり、それは高校からだけではなく、小学校・中学校からなど早い段階でもあったのだろうと思う。また、子どもだけではなく、大人もこの地域を出て行くというのが過疎の現状、原因であると思う。

教育を受け、知識や体力を身につけていけば、様々なところでそうしたものを発揮することができ、庄原にもそういった場所はあると思う。子どもたちも何らかのチャンスがほしいと思っているだろうし、チャンスを与えてあげたいという気持ちもある。将来的に庄原へ帰って地域のために汗を流し、頑張ってもらいたいという声を子どもたちにかけて欲しい。

部制についての質問だが、合併当初には部制があり、合併後10年経ったが「一体感がない」ということを感じている。現在6支所あるが、そこで事務や作業を完結する、責任を持って仕事をしたいという思いがある。連携しようとする、支所・地域単位にこだわらない考え方が必要となるため、「庄原いちばん」を掲げ、地域の単位にとらわれずに、市全体での「庄原いちばん」に取り組んでいる。

「いちばん」は競争する意味合いではなく、庄原の「いちばん良いところ」をお互いが探し出し、作り上げていこうということである。広島県から職員を派遣してもらい「いちばんづくり政策監」という役職に据えているが、庄原の「いちばんづくり」のために、部署を越えて横断的に知恵を出し合う姿を見て、設置して良かったと実感している。それをもっと集約して議論を深めていくためには「部制」が必要であると感じており、これに倣って進めていきたいと考えている。

また、庄原市では「比婆いざなみ街道物語」という計画を策定している。この中では熊野神社などの沿線資源を光らせたいという思いがある。

この庄原の中には多くの方々に見てもらいたいものが沢山ある。それを「庄原いちばん」の中で生かすことが出来ればと考えている。景色や観光などで驚いてもらうのも良いが、それ以外の素晴らしいものを生かす何らかの仕組みをつくっていききたいと考えているので、教育委員会の方々にもご意見をいただければと思う。

(寺西教育委員)

博物館や歴史的なものは庄原にも随分あるが、三次市に比べて美術的なものが少ないと思う。東城の時悠館にも何回か行ったが、いつも来館者が少ない。

「さとやま愛」を考えたとき、やはり地域で暮らし、地域のものを食べ、やがて子どもたちが成長してここへ帰って来るようにしないといけないと思うが、働く場が少ないという実情があると思う。

先ほど教育予算の話があったが、例えば本市のICT教育の先駆的な取り組みとして、総領小学校がタブレット端末を用いた授業を進めているが、他の学校へも展開し、切磋琢磨して授業内容や学力を高められるようにできればいいと思う。

本市の教育予算を三次市の規模にということは難しいが、庄原の子どもたちがここで学んで色んなものを発信できるまちにしていけたらと思う。人口は中々増えるものではないが、他市町からも呼び込めるような施策を色んな視点の中で取り組んでほしい。

先日、西城町熊野の植物を見せてもらったが、あの地域に行くとパワースポットと言われるような石や、歴史的な文化財など、人が見て楽しめるようなものがまだ沢山眠っていると思った。これにはとても感動し、自然の中にあるものが心に静かに語りかける感じがした。

(木山市長)

タブレット端末の話も出ているが、他所にはこれがあって庄原市にはないという話によくなる。他市町の施策を真似することは簡単であるが、庄原市で取り組むのであれば何か庄原らしい工夫をして取り組むように意見を出し合っていきたいと思う。

庄原には美術館はないが、子どもたちに実感してもらえる教育をしようと思えば県立広島大学を活用する方法がある。県大の学生とどうやって連携していくのか、内容などを考えると色々調整すべきことはあると思うが、例えば学生を農業に引き込む、自治振興区の中で学生がしてみたいことを受けて、子どもたちがそれを見て一緒に活動するなど、いろいろな方法やアイデアがあると思う。もっと連携を深め、学生を巻き込んでいく工夫を考えていきたい。

(寺西教育委員)

学校単位で研究公開などがあるが、もっと多くの人が現場に足を運び、一緒に考えたり学んだりすることができれば良いと思う。学校へ行くのを遠慮されていると聞くが、子どもたちを一生懸命見守る意味でも、もっと教育の現場に来てほしいと思う。保護者や地域の人以外が学校に行くことはあるか。

(牧原教育長)

ほとんど来ることはない。

(寺西教育委員)

保護者や地域の方以外も、もっと学校の授業を見てほしいと思う。

## 9. 閉 会